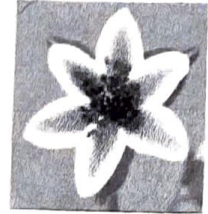




2/24, 3/16  
9:00 ~ 16:00

## 雪割草の育て方



雪割草は、個体変異が多様で、花の色・模様・形・大きさ、葉の形や葉紋など千差万別です。  
また、育て方により咲き方が変化することもあります。  
さて、皆さんの雪割草は、どんな花が咲くでしょうか…？

### 1. 当面の管理…開花～花が終るまで

お持ち帰りの雪割草は、花が終るまで今のポットのまま、次の点に注意して管理してください。

- ① 玄関・廊下・窓際など弱い光が当たる場所に置く。  
暖房の効いた部屋に置かない。(低温でゆっくり管理するのがコツ。)
- ② 表面の土が乾いたら、ポットの底から水が流れるくらいたっぷり水やりをする。  
1回の量は多く、回数は少なくするのがコツ。
- ③ 開花が進むと、新葉が伸び始めます。この頃から日光に充分当てます。(日中外に出してもよい。新葉は霜、凍結に弱いので注意。)
- ④ 新葉は柔らかく照りがありますが、展開が進むとしたいに光沢が無くなってきますので、そのころ日陰に移します。(直射光線は、日焼をおこします。)

### 2. 植え替え…桜の花が散る頃に地植(プランター植)にします

- ① 直射日光の当たらない庭木の下や、風通しの良い日陰の場所に地植します。  
排水の良い傾斜地か小高い所(平地は避ける)に、用土(鹿沼土中粒)を15cm位入れて、植え場所の土に混合してから植込みます。  
プランターへの寄植も移動ができるのでお勧めです。(用土は鉢植と同じ。)
- ② 夏は全くの日陰の場所が適します。(直射日光は日焼を起こし失敗の原因)
- ③ 冬は落ち葉などをかぶせ、寒風と凍結を防ぎます。

### 3. 鉢植えの場合…お気に入りの雪割草にお勧め(管理にやや手がかかります)

- ① 鉢は、水はけのよい素焼き鉢で、深めの鉢がよい。
- ② 用土は、硬質鹿沼土中粒8割、赤玉土中粒1割、軽石中粒1割を混合して使用。
- ③ 植替え時期は、9月上旬が適期です。(桜の散る頃でもよい。)
- ④ 肥料、温度・光線管理、置場所などは、地植えと同じでよい。
- ⑤ 水やりは、土の表面が乾いたら、たっぷりとやる。



### 4. 肥料(地植・プランター植・鉢植共通)

- ① 植替えの時に固形肥料(マグアンプK等)を<sup>5~6</sup>6~10粒 用土の中に入れる。
- ② 春と秋に有機質の固形肥料(長効きする肥料がよい)の置肥をする。

[注] 雪割草の用土には、野菜の土・花の土など、粒子の細かい土は不適です。